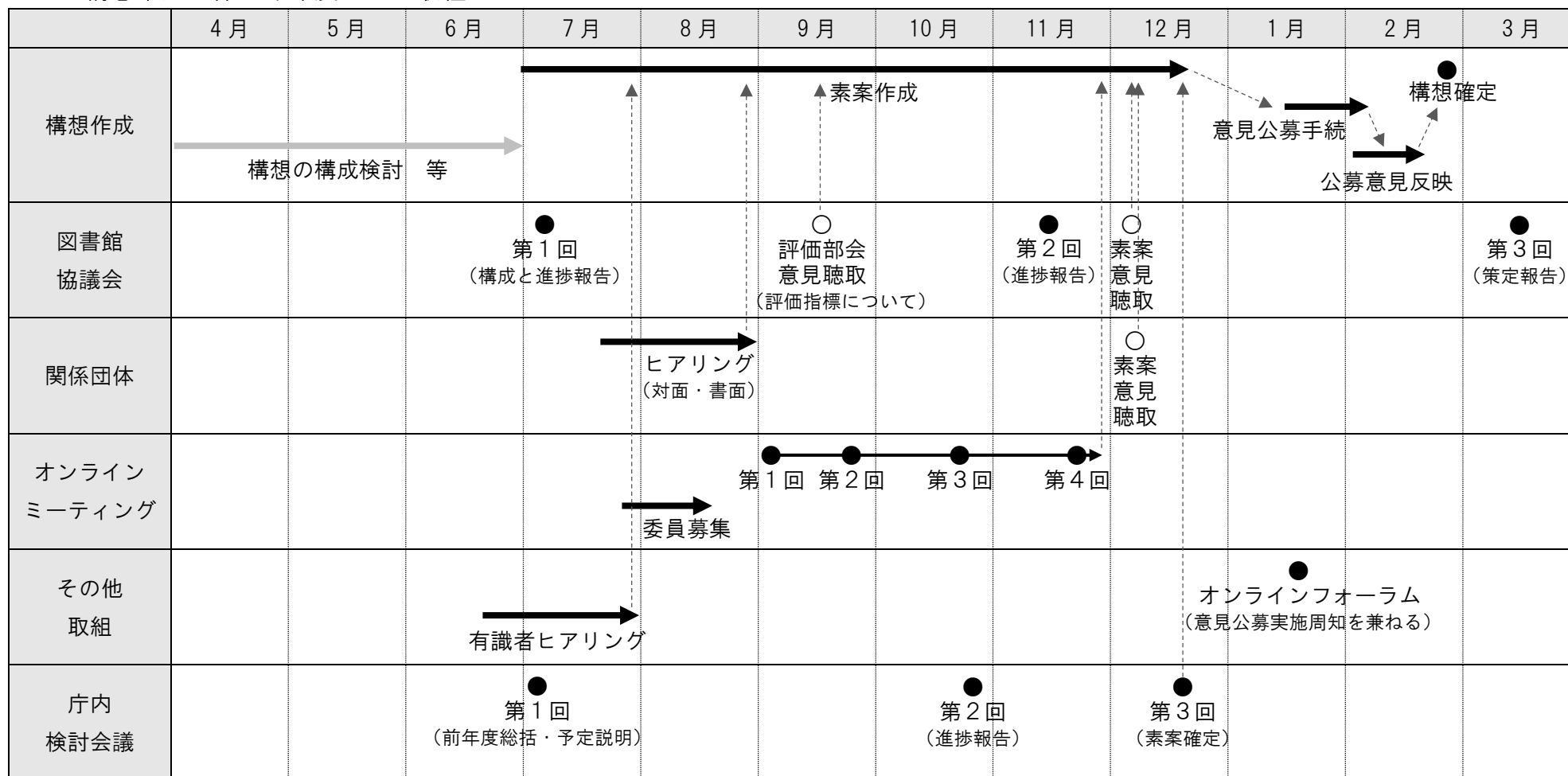


(仮称) 中央図書館基本構想進捗状況

< 1. 構想策定に係る今年度の主な取組みスケジュール >



＜ 2.（仮称）中央図書館基本構想の構成と概要＞

項目	概要
Ⅰ章 本構想の目的と位置づけ	
1. 背景と目的	● 「利用登録率の低下」「デジタル化」「公共施設マネジメント」といった課題・社会動向に対応する必要
2. 構想の位置づけ	
Ⅱ章 豊中市および豊中市立図書館の概況	
1. 豊中市の概況	● 人口減少や税収減の中でデジタル・ガバメントや SDGs を推進
2. 豊中市立図書館の概況	● 利用登録率は減少傾向である一方、予約は増加、来館者は横ばい ● 子ども読書活動の推進や市民協働、評価システム等の特徴
Ⅲ章 豊中市立図書館の現状分析	
1. 協議会からの意見書	● 中央館体制移行による業務一元化やワンストップサービス ● 地域に根差した豊中市立図書館の特長を失わない工夫が必要
2. グランドデザイン総括	● 低未利用層への働きかけや新たなサービス提供が必要
3. 公共図書館施策の動向	● 「場としての活用」「デジタル化」「まちの活性化」の事例
4. 図書館運営にかかる経費	● 事務事業見直しに基づく図書館費削減の目標は未達 ● 老朽化も進み全施設を維持する場合更新改修費は 20 年で 57 億円
5. アンケート調査結果	● 「座席の充実」「資料の充実」「施設の利便性」等のニーズ ● 利用頻度により図書館に対するニーズ・期待に差異
6. 現状分析のまとめ	● 「これからの時代に求められる図書館」「情報アクセス支援」「施設老朽化への対応」が課題のまとめ
Ⅳ章 豊中市立図書館の基本方針	
1. めざす姿	● コンセプト『つながる。わたしの図書館で。』と 3 つの基本方針
2. 方針と具体的取組み	● 電子書籍の導入やアウトリーチの推進、学校での ICT 活用支援 ● 中央館を中心とした施設配置とサービスポイントの設置
3. 蔵書方針	● 市全体で蔵書 100 万冊の維持と各館のサービス内容に応じた蔵書
Ⅴ章 （仮称）中央図書館の構想	
1. 中央館の概要	● 市全域からのアクセスを考慮し豊中～曽根駅の徒歩圏内を想定エリアに設定 ● 施設規模は約 5,000 m ² （所蔵数は 50 万冊）
2. 中央館の機能イメージ	● 図書館利用の動機づけとなる蔵書構築やイベント実施 ● 地域館・分館の支援やワンストップサービスの中核 ● 人と人をつなぐ「自己実現の場」
3. 中央館の整備手法	● 公民連携による費用負担の軽減・平準化や機能融合で魅力向上
Ⅵ章 構想に基づく進行管理	
1. 取組みのスケジュール	● 令和 4 年度（2022 年度）に中央館候補地や施設配置計画を決定 ● 中央館は令和 10-11 年度（2028-29 年度）を開館時期の目安
2. 評価指標と目標設定	● 利用拡大（実貸出利用率 17%→25%）や費用抑制（市民一人あたり 2,500 円→2,000 円）を評価指標として設定 ● 併せて市民の情報アクセスを支え満足度の維持向上をめざす

※構想の内容は、現在作成作業を進めており、上記内容は現段階の案となります。

＜ 3. 今年度の取組み＞

（１）有識者ヒアリング

構想策定に向け、図書館に関する各分野の有識者にヒアリングを実施した。

有識者	専門	主な意見
奈良大学文学部 嶋田 学 教授	図書館政策 図書館経営	● ICT化・デジタル化が進む一方で、「情報へのアクセス権」をどのように保障していくかが課題となる。 ● 評価指標の設定については、評価することそのものが目的とならないよう、目的や成果を明確化すべき。 ● 学校教育に資源が集中する反面、社会教育には課題があるのが日本の状況。「成人が学ぶ」機会の創出を。
同志社大学大学院 総合政策科学研究科 原田 隆史 教授	図書館政策 図書館情報学	● 資料の貸出・提供のみが図書館の担うべき役割ではない。中央図書館には豊中らしい話題性も必要。 ● 施設再編を進める中で、利便性や情報へのアクセスを補う仕組みが必要。駅前サービスポイントの設置やオンラインサービスの充実など。 ● 開架の新鮮度や魅力をどう保つか。人気のある資料が貸し出され、そのうえで書架が魅力的でなければならない。
愛知工業大学工学部 中井 孝幸 教授	図書館建築	● 感染症対策をとったうえで滞在利用ニーズに応じていく必要がある。 ● （複合施設の場合）図書館の専有部以外も「広義の図書館」として使える空間になると良い。 ● 既存建物の転用は書庫耐荷重の観点から課題が多い。

（２）関係団体ヒアリング

構想策定に向け、図書館を中心に活動する団体等にヒアリングを実施した。下記以外 11 団体に書面でのヒアリングも実施。

団体名	活動内容	主な意見
豊中図書館の 未来を考える会	図書館事業に 関する 提言等	● 図書館の機能・役割について、市民と行政の間で認識・理解を共有し一致させていく必要がある。図書館は本の貸出・返却だけの場ではないということに対する理解を深めるための取組みも必要。 ● デジタル化や効率化が進む一方、高齢者へのサービスや、デジタルデバイド解消への支援についても力を入れてほしい。 ● 市民から、公共性・公益性のある活動をしたいという声が増えていくことが期待される。団体だけでなく、個人等でもそういった想いを実現できるよう、ハード・ソフトの両面で図書館が支援できる体制を構築してもらいたい。

団体名	活動内容	主な意見
豊中子ども文庫 連絡会	地域における 子ども文庫の 実施や イベント実施	● 現状の4地域館体制のメリットも感じており、中央館体制に移行するのであれば、それ以上の利点の打ち出しが必要。 ● サービスポイント設置による利便性向上は期待できるが、「資料を選ぶ楽しみ」も大切にしてもらいたい。身近に本と親しめる場所を設置してもらいたい。 ● これまでに築いてきた市民協働による地域・人とのつながりを大切にしてほしい。 ● 図書館サービスでは人と本が最も重要。人の配置も考えた構想であってほしい。
おはなし ボランティア ポケット	読み聞かせ の実施や ボランティア の養成	● 子育て世代や高齢者など、身近にサービスを必要とする人々に対し、どのような形でサービスを代替するのか示してってもらいたい。 ● 「居場所」としての図書館の価値もある。 ● 各種活動を進めるためには一定のスペースも必要となる。 ● 資料相談には中央館以外でも的確に対応してもらいたい。

（３）図書館の未来を考えるオンラインミーティング

構想策定に向けた市民参画型の事業として、年度当初はワークショップの開催を予定していたが、感染症対策の観点から実施方法を変更し、ウェブ会議システム（Zoom）を活用したオンラインミーティングの形式で実施。9月からスタートし、全4回のうち第3回まで終了。

＜オンラインミーティングの概要＞

回数	全4回
日時	9/4・25・10/23・11/20（いずれも金） 19時00分～20時30分
参加者	13名 （世代：10代～80代 男性7名 女性6名）
進行形式	①冒頭で事務局から議題の趣旨説明 ②参加者・事務局での意見交換 （適宜グループ分けを行い参加者の発言機会を確保）
各回の 主なテーマ	第1回 構想策定の趣旨・背景 参加動機と図書館との関わり 第2回 社会変化を踏まえた図書館の役割 図書館の意義を周知する方法 第3回 中央館体制における他施設の役割 図書館の地域での関わり方 第4回 司書に求められる役割 図書館における資料の収集保存や情報提供

<参加者にとって図書館とは？>

自己実現の場として	● 利用するだけでなく、ともに育ち、ともに歩む場所 ● 地域住民にとっての居場所、ボランティアの活動の場、楽しい出会いの場 ● 個・私をつくる場所
情報源として	● 書店やインターネットにない書籍・情報を得られる場所 ● 頭の一部、職場であり生活の一部 ● （論文の執筆なども行っているの）書きものの場所
知の拠点として	● 知的好奇心を満たしてくれる装置の一つ ● 学びの場 ● 想像力（創造力？）をふくらませる場所
市民の味方	● （自宅の本の収納スペースが限られている中で）ありがたい存在 ● 今後、欲しい本をいち早く無料で手にできる場になってほしい ● 民主主義・公平性のバロメーター ● 学生の味方

<第3回までのオンラインミーティングで出された意見から抜粋>

図書館費の問題について

- 図書館費を減らさなければならないという状況を踏まえ、「人・施設・資料」をどうしていくのか（どう減らしていくのか）、明確なビジョンを示していく必要がある。
- 事業費削減や効率化が必要な反面、福祉的サービス等、効率のみで語れない部分もあり、効率化と公共性のバランスを考える必要がある。図書館が、単に資料の貸出・返却を行うだけの場でないことを広く理解してもらうための努力も必要。

図書館の利用促進について

- 公共施設をはじめとする行政サービスの中には、ビジネス層等が利用しづらいものも多い。例えば駅前では資料の貸出返却ができるなど、幅広い層が利用しやすいサービスを展開してもらいたい。
- 読書に親しんできた子どもが、高校から大学にかけて読書から離れがちである。この世代に利用してもらう、楽しんでもらう仕掛けづくりが必要。
- 図書館の固定的なイメージを壊すことも必要。「にぎやかに楽しむ」「地域活動の拠点になる」「グループで利用できる」といった、新たな活用方法を提案していく必要がある。

中央館の役割や地域館・分館との関係性について

- 中央館には、ICT 活用も含め、地域館や分館の支援や調整を行うバックアップ体制が必要。
- 中央館では多彩なイベントの実施や展示の工夫により知的好奇心をかき立てる仕掛けを。

図書館の役割について

- 図書館司書が行わなければならない仕事、機械化や効率化が可能な仕事、その線引きが必要である。
- デジタル化が進む今日の社会において、情報弱者のフォローや、情報リテラシー教育も図書館の役割になるのではないか。例えば、情報や思想が偏りがちな今日において、多様な視点で情報を提示することも図書館の役割の一つと考えられる。

（４）評価指標の設定に関する意見聴取

本構想は、豊中市立図書館の中長期計画（グランドデザイン）を包含するとともに、内部評価の枠組みについても構想で継承することとなっている。新たに評価指標や目標水準を設定するにあたり、本協議会の岸本委員長と瀬戸口副委員長（直近の図書館評価部会長）から意見聴取を行った。

＜当日のご意見より抜粋＞

- 事務事業見直しの継続課題として、引き続き市民一人あたり図書館費を評価指標として設定し、市民一人あたり 2,000 円という水準を目標に取り組を進めるとのことであるが、コストのみを評価指標とすると、コストが下がれば良いという議論になりかねない。コストが下がる中でサービス水準や市民の満足度がどうなったかも把握する必要がある。
- 構想の中でいくつかの基本方針を定め、1つの基本方針に対して1つの評価指標を設定するという議論があるとのことだが、その場合、評価基準が固定化されてしまうおそれもある。中長期的に設定できる代表指標と、時代の変化に応じ柔軟に見直す指標を組み合わせる方法も考えられる。図書館の事業が、どの基本方針に基づくものであるかを整理することも必要。
- 評価とは、図書館の取り組みや成果を可視化するものであり、職員のモチベーションにも大きく影響する。「職員がやりがいを感じられること」「市民に分かりやすく報告できるのこと」の2点が、評価で大切となる。